

# 透析患者の手根管症候群手術既往歴の疫学調査

○ 西 慎一<sup>1)</sup>

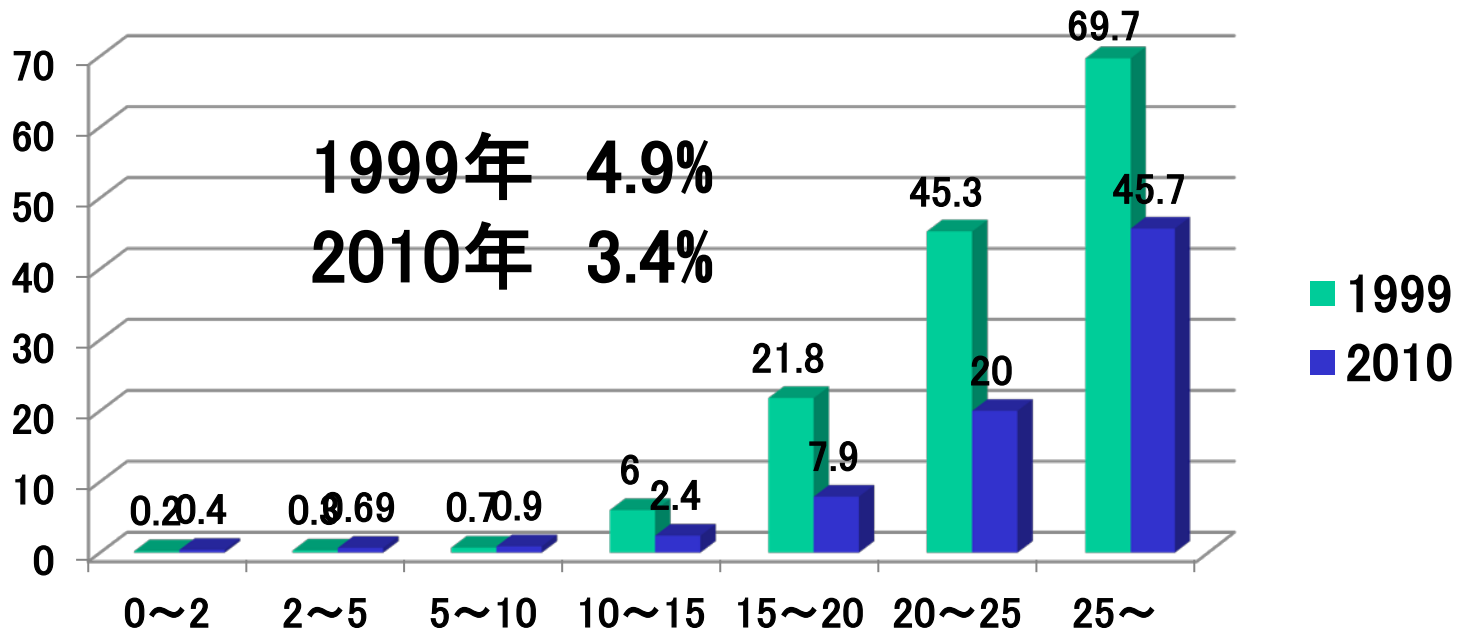
[研究協力者]所属:神戸大学大学院腎臓内科 腎血液浄化センター<sup>1)</sup>

[共同研究者]氏名:山縣邦弘<sup>2)</sup>、中井 滋<sup>3)</sup>、星野 純一<sup>4)</sup>、椿原美冶<sup>5)</sup>、

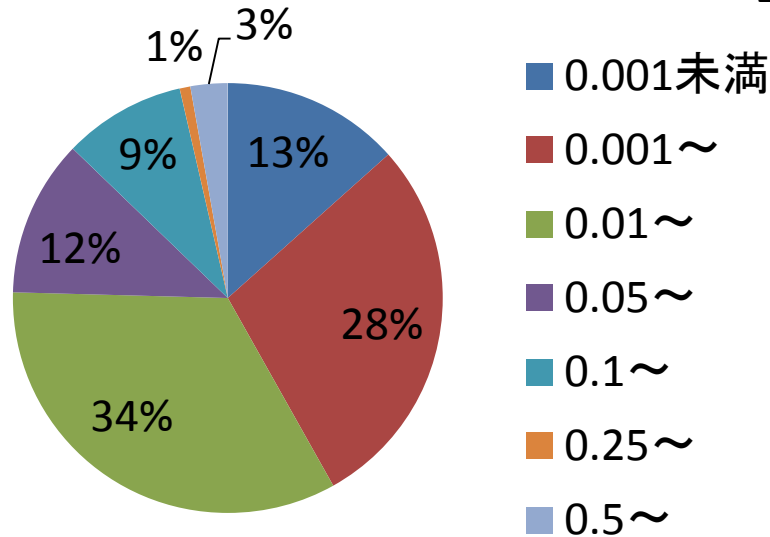
所属:筑波大学医学医療系腎臓内科学<sup>2)</sup> 藤田保健衛生大学臨床工学科<sup>3)</sup>、

虎ノ門病院分院内科<sup>4)</sup> 大阪大学大学院腎疾患統合医療学寄付講座<sup>5)</sup>

## 透析歴と手根管症候群開放術既往歴の時代変遷

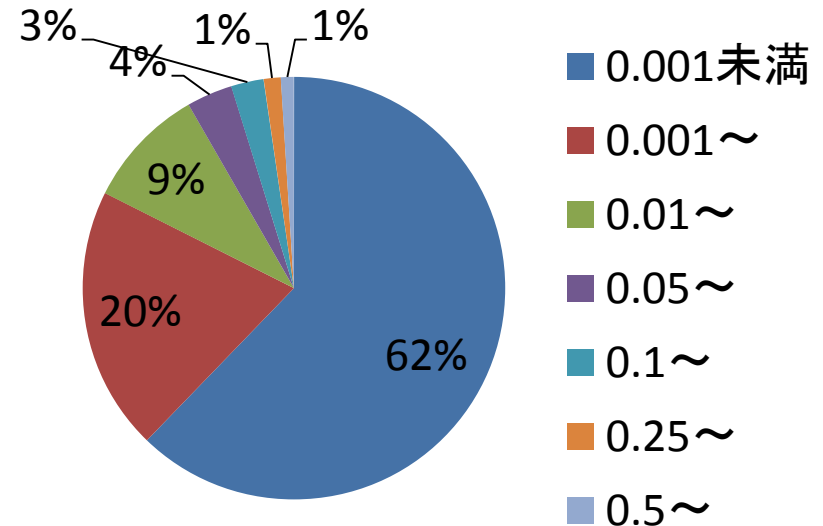


透析液清浄度  
1999年エンドトキシン濃度 (EU/ml)



n=3,749

透析液清浄度  
2010年エンドトキシン濃度 (EU/ml)



n=1,616

1999年と比較して2010年には透析アミロイドーシスの代表的症状である手根管症候群の有病率は4.9%から3.4%に減少した。その背景因子として、透析液の正常化が最も大きな要因ではないかと考えられた。その他、透析効率の向上も寄与していると考えられた。

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| 1. 年齢(加齢)          | 関係なし        |
| 2. 透析歴             | 関係なし        |
| 3. 前駆蛋白B2MG濃度      | 関係なし        |
| 4. 透析方法            | 関係なし        |
| 5. <b>透析効率</b>     | <b>関係あり</b> |
| 6. <b>透析関連慢性炎症</b> | <b>関係あり</b> |